

施設長 各位

那覇市医師会  
会 長 山城 千秋  
副会長 友利 博朗



### 「発熱患者の診察」等に関する「アンケート調査」について（集計報告）

日頃より予防接種事業及び感染症対策にご支援ご協力賜り、感謝申し上げます。

さて5月14日(木)、政府による新型コロナ感染症による緊急事態宣言の対象から解除されたことを受け、沖縄県では玉城デニー知事が5月21日(木)より県民に対する休業・活動自粛要請を全面的に解除する方針を発表しました。しかしながら今回はあくまでも第一波の収束であり、今後も長期的に第二波、第三波を見据えて医師会一丸となり万全な対策を確立していく必要があります。今後ともご協力の程宜しくお願い申し上げます。

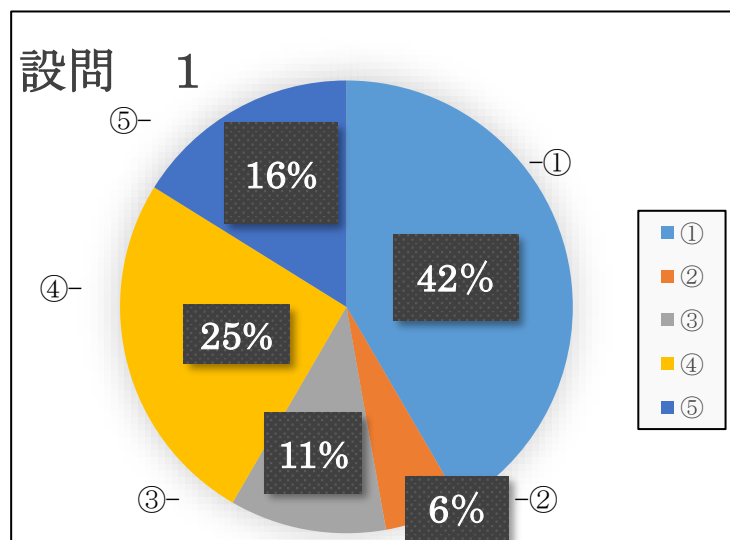
早速ですが令和2年4月16日付けの「発熱患者の診察」に関する「アンケート調査」の集計結果が纏まりましたのでご報告いたします。各診療所において限られた医療用防護具、自院のスペースを創意工夫しながら日々の発熱患者の対応に努められていることが伺われました。心より敬意を表したいと思います。会員の先生方も是非ご参考にして頂きたいと存じます。

☆ 問合せ先：那覇市医師会・事務局（上地・上原） Tel 098-868-7579  
記

☆ アンケート回答率：138/235施設（58.7%）

設問1. 現在の「発熱患者の診察」における対策について(複数回答可) (回答数：161名)

- ① 動線隔離を行っている (67名/42%)
- ② 時間的隔離(発熱者診察の時間を決める)を行っている (9名/6%)
- ③ 特に隔離を行ってない (18名/11%)
- ④ 発熱者の診察を行っていない (41名/25%)
- ⑤ その他、工夫されて行っている対策がありましたらご記入下さい (26名/16%)



#### <ご意見欄>

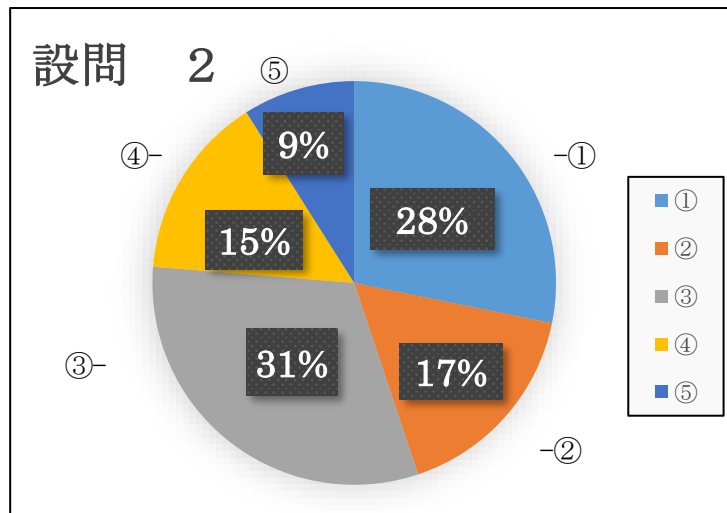
- こまめに院内消毒と換気を十分に行っている。窓や戸は、診察開始から終了まで終始解放している。(内科)
- アクリル板でシールド隔離している。(内科)
- 直接肌に触れる処置をなくした。シールドの設置。院内でのマスク着用依頼の徹底。(皮フ科)
- 小児に限定して診療している。(小児科)

- 入棟前の検温、症状確認（精神・心療科）
- クリニックの外での診察（2ヵ所ある入口のうち1つを閉じて小さい部屋を作っています）手作りのフェイスシールドマスク。（内科）
- 電話等での初診、再診を行っている。（外科）
- 屋外テントを駐車場に設営（内科）
- 発熱患者は、院外で診察（車中待機）（産婦人科）
- 外での診察。電話、オンライン診療の導入。（内科）
- シールド設置（産婦人科）
- 車中診察（小児科）
- 受診前選別、車で待機、マスク着用、待合で出来るだけ待たせない。（耳鼻科）
- 席を離す（眼科）
- 状況により、別室で隔離し診察しています（小児科）
- 発熱がる方は、車中から電話を入れて、車中待機をお願いしますという案内をしている（内科）
- 完全に動線を分けるようにしており、個室や特室のベッドに案内し対応しています。（内科）
- 受付カウンターにシールドを設置。（整形外科）
- 駐車場にて発熱外来を設置。電話で問い合わせがあった場合、待てる方には空いている時間を案内している。定期受診以外の方は基本的に遠慮していただいている。（内科）
- 患者さんが多い時は車で待機してもらって、携帯へ電話することになっている。場合によっては車の窓越しに診察する予定。（眼科）
- 隔離は行っているが、動線は行っていない。（内科）
- 換気を行っている。（精神・心療科）
- 駐車場に診療スペースを設けて診療。腹部の診療は、プライバシーに気を付け車内で行う。受付にシールドを設置予定。（内科）
- 発熱の患者はまず車でまってもら。電話で問診を行う。問診より対応。診察する場合でも院内滞在時間は短時間で対応。前後車で会計。（耳鼻科）
- 入り口にて問診を行い、コロナ患者が限りなく低ければ外来で診察している。疑われればコールセンターへTELする流れ（内科）
- 原則的、患者の診察を行わず、車待機、投薬のみ或いは家族で薬の受取り、受付は後日（産婦人科）
- エレベーターホール内へ戻して診察（外科）
- 症状によりコロナウイルス感染の可能性が考えられる方については、先に電話して駐車場の車内で待機してもらって、車の窓越しに聴診などして主訴に対して処方するようにしています。その後も症状改善しなければ相談センターへTELするように指示しています。（内科）
- 待合室の一角をアコーディオンカーテンで区切り、そこでの診察後は、消毒し、その日と翌日は使用しないようにしている。しかし、発熱患者が多い場合は困難になる。（皮フ科）
- 院外にテント設置で診察。（内科）
- リハビリ患者が治療の中心なので発熱患者は受付せず（問診で発熱有無確認）（整形外科）
- 待ち時間は外や車の中で待機してもらっている。屋外で面談することもあり（院内に入れないことがある）（外科）
- 玄関先で検温と問診を行い入館可の判断をしています（産婦人科）
- 車で待機、診察等（内科）
- 駐車場で離れて診察しており、今は中止している（内科）
- 動線隔離は、ムリなため、発熱患者の待機部屋で、できるだけ他の患者との接触時間を短くすることにつとめている。（耳鼻科）
- 電話による問診で処方を決め、家族に取りにきてもらっている（内科）
- 受付、薬局できることは、スーパーの様に透明シールドを設置（内科）
- シールドを設置（眼科）
- 定期患者のみ（外科）

- 急性前立腺炎や急性腎盂腎炎を疑う症例のみ診察しているが、呼吸器症状があり、本人・家族のいずれかが流行地域から戻ったばかりであれば、接触者相談センターに電話するように指示している。  
(泌尿器科)
- 駐車場の車内へ隔離し、看護師の問診、バイタルチェック、医師の診察を行っている。会計、薬局も車まで行って精算している (内科)
- 診療所玄関先にテント設置。 (小児科)
- 受付にTELにて連絡ある場合は、予約を患者さんのいない時間へ調整。直接の来院時はすぐに別診察室へ誘導する。(内科)
- シールドは設置しました (精神・心療科)
- かかりつけの患者さんのみ対応している。(飛び込みや初診は受付けていない) (小児科)
- スタッフの眼鏡 (ゴーグル)、マスク、手袋着用、全て窓をあけて、扉も開放、二カ所で次亜塩素酸の噴霧、定期的に清拭。 (眼科)
- 0.1%次亜塩素酸ナトリウム液 (市販のハイターキャップ1杯+水 (500ml)) を霧吹きにいれ午前・午後の診察前に待合室、トイレ、診察室に噴霧している。 (耳鼻科)
- 個室隔離をしています (内科)
- 対策に限界あり、かかりつけ通院患者は診察 (内科)
- ①デイケア・デイサービスが主なので、利用者様はお迎え時点で発熱の有無確認し発熱のある場合は休んでもらうか、できるだけ他の利用者から離しています。  
②スタッフも含め、できるだけ1日2回の検温をします。(内科)
- 胸部CTを発熱継続している方に実施している (泌尿器科)
- 屋外に発熱待合を設置し、問診、診察、処方を行っている (耳鼻科)
- 子供は診る (小児科)
- 患者同士の接触を避ける為、車で待機して頂き、電話で問診を取り来ていただいている。  
(予防接種は木曜日午後他に他の診療を休み行っている)  
(どうしても対面診療に成らざるを得ない時は外に通じる廊下の端の隔離スペースで行っている)  
付き添いの方の体調や発熱等が危惧されますので、玄関先で受付後、一旦、車に戻って頂き、電話診療を促したり、保護者の方は外で待って頂いたり、工夫している (小児科)
- 受付にシールド設置。手作りのフェイスガードを使用。発熱診察の為、診療所前にテント設置し隔離している (内科)
- 新型コロナに感染リスクのありそうな患者さんは診察を遠慮してもらっている (透析患者を守る為)  
(内科)
- 別室での診察、電話による診察。 (内科)
- 院内の一般外来待合室とは一定の距離を保ち、発熱外来として3室パーテーションを利用して隔離し発熱患者を診察しております。 (病院)
- 発熱の患者さんは車で待ってもらい、待合室の様子みて診察するようにしている。 (内科)

**設問2. 今後、感染拡大(フェーズ4)になった際の「発熱患者の診察」について (回答数・156名)**

- ① 動線隔離、時間的隔離を継続して自院で発熱者の診察を行う (44名/28%)
- ② 自院で発熱者の診察を行わない (理由を下段⑤にご記入をお願いします) (26名/17%)
- ③ 自院で発熱者の診察を行わず、※電話等での初診、再診を行う (49名/31%)
- ④ 自院で発熱者の診察を行わず、協力病院での発熱外来へ協力する (23名/15%)
- ⑤ その他 (14名/9%)



### 設問 2. ②の理由

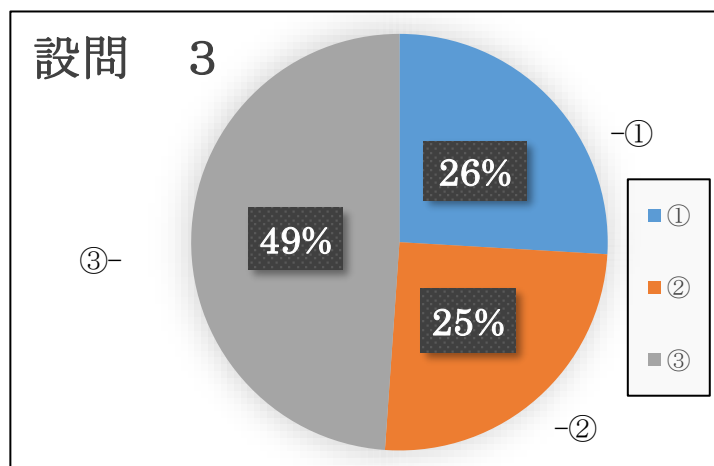
- 産科診療に徹するため (産婦人科)
- 防護服、N95 マスク、フェイスシールドがないです。 (内科)
- 妊婦のみ (産婦人科)
- 眼科であり、基本的に発熱患者は診察しない方針 (眼科)
- 発熱者専用のスペースがない。クリニックへの患者出入口も1カ所である。防護服がない。(内科)
- 発熱者の対応ができない。 (小児科)
- 感染対策が出来ないため。 (内科)
- 専門が精神科であるため。 (精神・心療科)
- 外科系のクリニックのため (外科)
- 看護師の高齢化 (内科)
- ショートステイ、通所リハの利用者への感染を防ぐため (内科)
- 泌尿器系疾患からの発熱患者のみ対応する。 (泌尿器科)
- 動線隔離ができないので (整形外科)
- 当院は透析クリニック (内科)
- 当院は喘息発作で来院が多く、発熱者と完全に分けることも不可能なので、できません。(内科)

設問 3. 今後さらなる感染拡大に伴い、PCR検査件数の増加が予測されます。その際、感染症指定病院、感染症協力病院だけで検査を行う事が困難になると考えられます。

那覇市医師会としても全面的な協力体制を図って行く必要があると思います。

それに伴い那覇市医師会でPCR検査における検体採取、防護服の着脱法の実技指導が開催されれば参加いたしますか？ (回答者：135名)

- ①参加する (35名/26%)    ②参加しない (34名/25%)    ③ 段階では分からない (66名/49%)



以上です。